公民を学んで

わたしたちは，わたしたちが生活する社会がどのようなものであるか，政治や経済のしくみやはたらきがどうなっているかについて学んできました。

わたしたちは，一人一人がかけがえのない存在としてこの地球に生まれ，それぞれの個性に応じた生き方を見い出し，その生命を全うして次の世代へとバトンタッチしていきます。一人一人にとって二度とない人生です。わたしたちは，一人一人の人間がこのようにかけがえのない尊い存在であることを，おたがいに認め合うことから出発しなければなりません。

この学習を通してわたしたちが学んだもう一つたいせつなことは，わたしたちは決して一人では生きていけず，おたがいに足らないところを補い合い，助け合って生きていかなければならないということです。わたしたちの日々の生活が，いかに多くの人たちのはたらきに依存しているのかを，いろいろな場面で学んだのではないでしょうか。

わたしたちが生きていくうえで，さまざまな不幸に遭遇したり，争いごとにまきこまれたりすることがさけられないことは事実です。残念ながら，人がよかれと思ってやったことが不幸な結果に終わったり，また，人には他人の不幸を喜ぶようなところさえあります。人類は多くの悲惨な戦争を経験してきましたし，現在でも多くの民族的・宗教的な対立抗争が存在しています。

しかしながら，人間の人間たるゆえんは，一人一人が独自の尊い存在であることを認め合い，なんとか調和をとりながらともに生きていこうとして，真剣に考え努力してきたところにあります。こうしたともに生きる(共生の)場は，家族にはじまり，学校や職場，地域社会，さらには国家，そして最後には国際社会へと，その輪は広がっていきます。交通手段やインターネットなどでの情報通信手段の発達で，国際社会も個人にとってずいぶん身近なものとなってきたところがあります。

わたしたちは，すでにある社会に生まれてきたわけですが，この社会はどうにも変わりようのないものではなく，わたしたち一人一人の努力いかんによって，よくもなり，逆に悪くもなるのです。最も遠い存在と思われる国際社会さえ，その例外ではありません。地球環境はもはやひとごとではなく，よき環境の保全のために，国家として，地域社会として，また個人としてなすべきことが少なくないのです。

わたしたちは，それぞれの人生を自らの力で切りひらく努力をするとともに，多くの人たちによって生かされていることにも思いをおよぼしながら，他の人たちのためにも生きることの意味を実感したいものです。